

「篋篋」攷 中世写本を中心に 付：天正十二年写本(歴博本)影印

小池淳一

“Hoki” Research: Focusing on Medieval Manuscripts. Appendix: Imprint of Tensho 12 (1584) Manuscript (Rekihaku version)

KOIKE Junichi

はじめに

- ① 「篋篋」の研究史と課題
- ② 「篋篋」の中世写本
- ③ 東北大学本の書誌と内容
- ④ 南照寺本の書誌と内容
- ⑤ 只見本の書誌と内容
- ⑥ 国会図書館本の書誌と内容
- ⑦ 歴博本の書誌と内容
- ⑧ 書写の場
おわりに

【論文要旨】

本稿は「三国相伝陰陽輶轄篋篋内伝金鳥玉兎集」と称される書物について、主として中世期の写本を対象として考察する。書写年次が明らかで、かつ内容が確認できる五本について、書誌情報を中心に分析を加えた。

その結果、これらは中世末に東国（東北地方南部および関東）の真言宗寺院で書写され、書写した人物は真言僧であったことが判明した。またその内容については、古いものは多種多様である一方で、近世版本の内容に近く整ったものも見出せる。この

ことから、中世における「篋篋」は固定した本文を持たず、さまざまな知識が「篋篋」の名のもとに集成される過程にあったことがうかがえる。

今後の課題としては、個々の写本にとどまらず、それらの内容相互の関係の解明が必要である。特に「宣明曆経注」としての内容に対して、「造屋篇」や密教経典に擬する「曜宿経」から、少なくとも三つの系統の知識が想定できる。

【キーワード】 陰陽道 真言宗 修験 中世寺院 東国